

未来へつながるグローバル都市

“OITA”

～Embrace Diversity, Unite for the Future～

～多様性を受け入れ、未来に向かって手を取り合っていこう～

2025年度
(令和7)
～
2029年度
(令和11)

大分市
国際化・多文化共生推進計画

(第5次大分市国際化推進計画)

Oita City Globalization and Inclusion Plan



このパンフレットは概要版です。
本編および多言語版は
こちらでご覧になれます。



国際課公式SNS

国際化・多文化共生の現状

■グローバル化の進展

情報通信技術の進歩や交通手段の発達により、人、モノ、情報の国際的移動が活性化され、企業の国際的な競争の激化、インバウンド需要の高まりによる外国人旅行者の増加、さらには深刻化する生産年齢人口の減少に対応するための外国人労働者の受け入れなど、社会経済活動のグローバル化が拡大しています。



■加速する少子高齢化と人口減少

本市の出生数は2011(平成23)年以降減少傾向が続き、2023(令和5)年は2015(平成27)年と比較して約2割減少しています。

一方で、65歳以上の人口の割合は2023(令和5)年に28.7%となり、今後も人口が減少するなか65歳以上人口が増加し、高齢化が一層進行する見込みで、医療や福祉、農林水産業等の各産業分野における担い手不足や高齢化などが深刻な課題となっています。



■デジタル化の進展

新型コロナウイルスの影響により、テレワークやオンラインでの授業など、社会全体のデジタル化が加速し、時間や場所の制約を受けずに多様な働き方や学び方が広がるなど日常生活は大きく変化しています。

また近年は生成AIの発展により、業務の効率化や創造的な活動が盛んになるなど、新しいサービスや価値の創造が促進され、可能性が大きく広がることが期待されています。



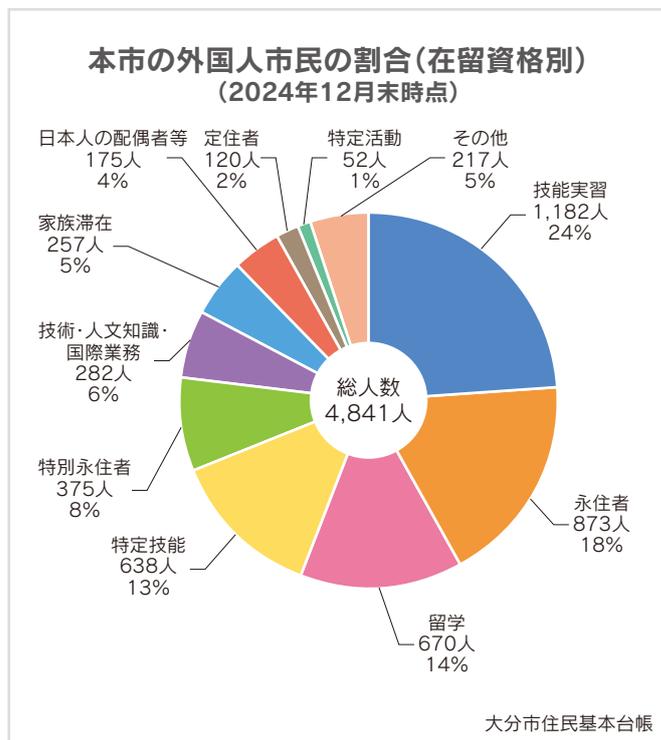
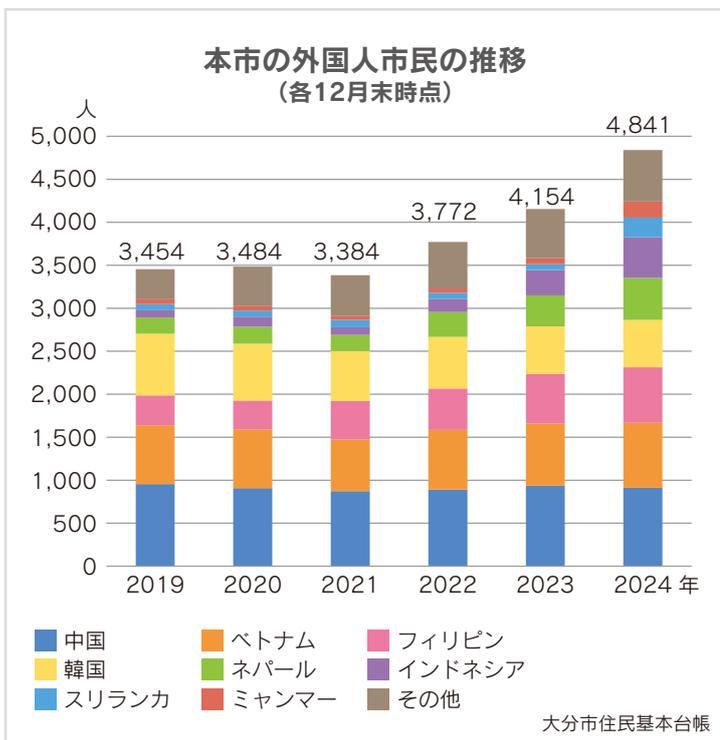
■市民意識調査

2023(令和5)年11月～12月にかけて市民3,500人に「令和5年度大分市民意識調査」、また「外国籍市民アンケート」を行いました。

「異なる文化や価値観を理解・尊重できる人材の育成」や「外国人が地域社会に積極的に参加できるような機会の提供」が重要であると感じている市民が多く、外国籍市民の困りごとは「言葉」について、「税金や健康保険などの仕組みが分からない」という回答が多い結果となりました。



グラフで見る大分市の現状



計画の体系

■計画の位置付け

本計画は、市政運営上の最上位計画である「大分市総合計画」に基づき、本市の国際化の推進を具現化するために策定するものです。

■計画期間

2025(令和7)年度～2029(令和11)年度

基本理念

未来へつながるグローバル都市“OITA”

～ Embrace Diversity, Unite for the Future ～

～多様性を受け入れ、未来に向かって手を取り合っていこう～

推進テーマ

国際化に対応する ひとづくり・まちづくり (多文化共生)

外国人市民も含めたすべての市民が地域社会の一員として支え合い、多様な文化や価値観を尊重しながら、持てる力を最大限に発揮できるまちづくりを目指します。

< 施策の方向性 >

1. 外国人市民も
暮らしやすいまちづくり

【施策】

- 1-1 コミュニケーション支援
1-2 生活支援

< 施策の方向性 >

2. グローバル社会に対応した
国際感覚豊かなひとづくり

【施策】

- 2-1 国際化を担う人材の育成
2-2 地域における多文化共生の促進

海外とつながり 発展する「おおいた」 (国際交流・国際協力)

国際交流の主役である市民や団体、企業などが多彩な国際交流・国際協力・経済交流を通じて相互に長所を活かし、それぞれが魅力を高めることにより、新たな地域活力を創出します。

< 施策の方向性 >

3. 海外の活力を生かし
地域産業を元気に

【施策】

- 3-1 インバウンド観光の推進
3-2 海外販路拡大への支援
3-3 外国人材の雇用促進

< 施策の方向性 >

4. 海外との連携により、
ともに発展する大分市の実現

【施策】

- 4-1 海外都市との交流による地域の活性化
4-2 海外都市との連携・国際協力の促進

施策の方向性と施策

イメージ



これまでの国際化推進計画の取組

施策の方向性と施策

施策の方向性1. 外国人市民も暮らしやすいまちづくり

施策1-1 コミュニケーション支援



多言語映像通訳サービス

デジタル化の進展によるICT技術を活用しながら、多言語化の対応に取り組むとともに、外国人市民に対する日本語教育の充実、さらには「やさしい日本語」の普及への取組を行います。



日本語ボランティア養成講座

主な取組項目

- ▶ 地域日本語教室の担い手の育成 【数値目標項目】
- ▶ 日本語を学習できる機会の創出
- ▶ やさしい日本語の普及に向けた講座等の開催
- ▶ 市民の多言語対応のニーズに対応
- ▶ 非常時でも多言語対応できる環境の整備
- ▶ 市役所が作成する資料の多言語化

施策1-2 生活支援



外国人市民を対象としたごみ分別の講座

様々なバックグラウンドを持つ外国人市民が、地域の一員としてともに暮らすために、ごみ分別の講習会の実施や生活に役立つ情報、多言語防災ガイドブック等を転入時に周知するだけでなく、SNS等を活用した積極的な情報発信を行うなど、幅広い生活支援に取り組めます。



多言語防災ガイドブック



多言語防災
ガイドブック
二次元コード

主な取組項目

- ▶ 国際課公式SNSでの情報発信 【数値目標項目】
- ▶ 市役所等での外国人市民の相談対応の充実化
- ▶ 外国人市民の防災・災害時対策の充実化
- ▶ ゴミ捨てなどの生活情報の提供
- ▶ 外国人コミュニティとの情報共有体制の構築
- ▶ くらしに関する出張講座の実施

	評価指標(KPI)	基準値	目標値
施策1-1	地域日本語教室の担い手の育成 (日本語ボランティア講座受講者数)	40人 (2024年度/初年度)	200人 (2025~2029年度累計)
施策1-2	国際課公式SNS閲覧数 (Facebook・Instagram)	7,957件 (2023年度)	9,000件 (2025~2029年度平均)

施策の方向性2. グローバル社会に対応した国際感覚豊かなひとづくり

施策2-1 国際化を担う人材の育成



やさしい日本語講座

外国人との交流機会の創出やALT(外国語指導助手)の活用などの取組を行い、異文化への理解を深め、コミュニケーション能力を身につけるなど、急速に進化するグローバル社会に対応できる人材を育成します。

主な取組項目

- ▶ 小中学校における英語教育（ALTの活用）
- ▶ 海外への関心を高め、文化の違いを理解できる機会の創出
- ▶ 姉妹友好都市等との交流
- ▶ 地域における多文化共生推進人材の育成
- ▶ 市職員の国際化・多文化共生に関する意識向上



小学生と留学生との交流イベント

施策2-2 地域における多文化共生の促進



海外の文化に触れる料理教室

おおいたワールドフェスタや国際理解推進講座・多文化共生講座等のイベント開催を通して、異文化理解や国際協力について触れ合える機会を創出するほか、市民主体の多文化共生イベントを支援することで、地域における多文化共生を促進します。

主な取組項目

- ▶ 異文化理解や国際協力について触れ合える機会の創出
- ▶ 異文化理解・国際理解を促進する講座等を開催
- ▶ 市民主体の多文化共生イベントの支援
- ▶ 外国人市民の積極的な地域活動等への参加を促進



おおいたワールドフェスタ

	評価指標(KPI)	基準値	目標値
施策2-1	外国人と交流する事業に参加したこどもの数 (学校でのALTによる通常授業を除く)	1,091人 (2023年度)	1,200人 (2025~2029年度平均)
施策2-2	国際化・多文化共生イベントへの参加者数	20,002人 (2023年度)	22,000人 (2025~2029年度平均)

施策の方向性3. 海外の活力を生かし地域産業を元気に

施策3-1 インバウンド観光の推進



台湾での大分県単独商談会

インバウンド観光の段階的な回復を見据え、ホームページや観光パンフレットなどの多言語化のほか、県や関連団体と連携して観光プロモーションを行うことで、さらなる誘客促進につなげていきます。

主な取組項目

- ▶ ホームページや観光パンフレット等の多言語化
- ▶ MICE開催の誘致
- ▶ 観光プロモーション(県や関連団体と連携)

施策3-2 海外販路拡大への支援



シンガポールでの大分産品の試飲・試食イベント

市内中小企業の海外向け新商品開発や越境ECへの出展などを様々な方法で支援するとともに、大分県やジェット口などの関連機関と連携し、現地商社とのマッチングサポートなどを行い販路拡大機会の創出に努めます。

主な取組項目

- ▶ 海外販路拡大に向けた新商品開発や越境ECへの出店、知的財産権の取得等を支援
- ▶ 見本市への出展支援や商談会の開催
- ▶ 各国の情勢や市場概況を学ぶセミナー等の開催
- ▶ 大分県やジェット口などの関係機関との連携

施策3-3 外国人材の雇用促進



やさしい日本語やさしい職場環境習得セミナー

企業向けに、職場における外国人との円滑なコミュニケーションや外国人が働きやすい職場環境づくりを支援するセミナー等を開催するとともに大分労働局や大分県などの関連機関と連携を図ります。

主な取組項目

- ▶ ビジネスオンライン講座等を開催
- ▶ 外国人が働きやすい職場環境づくりを支援するセミナーの開催
- ▶ 労働局、県、監理支援機関等の関連機関との連携

	評価指標(KPI)	基準値	目標値
施策3-1	外国人観光客宿泊客数	34,338人 (2023年)	102,000人 (2029年)
施策3-2	海外展開支援件数	55件 (2023年度)	275件 (2025~2029年度累計)

施策の方向性4. 海外との連携により、ともに発展する大分市の実現

施策4-1 海外都市との交流による地域の活性化



大分市中学生オースティン市派遣事業

姉妹友好都市をはじめとした海外都市と積極的に交流することで、市民レベルでの異文化理解や豊かな国際感覚の醸成を促進します。



大分国際車いすマラソン

主な取組項目

- ▶ 姉妹友好都市等との交流を推進
- ▶ 市民が行う姉妹友好都市交流や国際交流イベントへのサポート
- ▶ 海外の芸術家や選手が参加する文化・スポーツのイベントの開催・誘致

施策4-2 海外都市との連携・国際協力の促進



第14回アジア太平洋都市サミット（鹿児島市）

グローバル化が進展する中で、あらゆる分野で国境を越えた協力や連携が不可欠となっていることから、海外都市との連携や、市民や関係団体と連携し、国際協力の促進を図ります。



おおいたワールドフェスタでのPRブース

主な取組項目

- ▶ アジア太平洋都市サミット等の国際会議へ参加し、他都市の先進事例を収集
- ▶ 海外からの視察団等の受入
- ▶ 青年海外協力隊経験者による講座等、JICAと連携した国際協力活動の普及

評価指標(KPI)

基準値

目標値

施策4-1

姉妹友好都市をはじめとした海外都市との交流件数

19件
(2023年度)

125件
(2025~2029年度累計)

大分市の姉妹・友好都市(海外)

■ポルトガル共和国 アベイロ市

提携日 1978(昭和53)年10月10日

姉妹都市 1978年

大分市は、16世紀半ばの大友宗麟の時代からポルトガルとの交流が盛んにおこなわれ西洋文化が開花したという歴史的背景を踏まえ、姉妹都市を提携しました。以来、文化・芸術やスポーツを通じた交流などを行ってきました。



2023年には姉妹都市提携45周年を迎え、翌年2024年にはアベイロ市がポルトガル文化首都に選出されたことを記念し、アベイロ市長からアベイロ市運河フェスティバルへの招待を受けました。これにより、大分市副市長を団長に、現地で演奏実績がある音楽団を含む訪問団をアベイロ市に派遣し、記念式典出席や音楽団による演奏会などが行われました。

■中華人民共和国 湖北省 武漢市

提携日 1979(昭和54)年9月7日

友好都市 1979年

1974年より武漢鉄鋼コンビナートの近代化プロジェクトにより、武漢市から延べ200人の技術者が大分市に長期滞在し、また大分市からも数多くの技術者が武漢市へ派遣されるなど、市民間の往来が次第に頻繁となったことが契機となり、友好都市を締結しました。以来、農業実習生の受入れや中学生相互派遣、大分交響楽団武漢公演、武漢雑技団大分公演、ビジネスなどさまざまな分野で交流を行ってきました。



2024年には友好都市締結45周年を記念して、武漢市から料理人を招聘し、おおいたマルシェで武漢の名物料理を販売したほか、武漢市と交流のある福德学院高等学校で料理教室を開催しました。また、市内8店舗で武漢市と縁の深い食材「水耕せり」を使用した特別メニューを提供する「中国・武漢料理フェア」を約1か月開催しました。

■アメリカ合衆国 テキサス州 オースティン市

提携日 1990(平成2)年10月30日

姉妹都市 1990年

大分県でテキサス会議が開催されるなど、大分県とテキサス州の交流が活発であったことに加え、オースティン市とは産業・文化面で類似していることから、姉妹都市の提携を行いました。以来、文化、芸術、スポーツ、ビジネスなど、幅広い分野で交流を行ってきました。



2023年および2024年には市内の学校に通う中学生6名をオースティン市へ派遣し、ホームステイや現地の学生との交流などを行いました。また2024年には、オースティン市から高校生6名を受け入れ、市内でのホームステイや市内中高生との交流を行いました。